

国立遺伝学研究所運営会議（第128回）議事要旨

日 時 2023年2月22日(水) 10:00 ~ 12:00

場 所 Web会議（Zoom）

出 席（所外委員）上村委員、漆原委員、胡桃坂委員、篠崎委員、菅野委員、高橋委員、田畠委員、本橋委員、森川委員（副議長）

（所内委員）仁木委員、平田委員（議長）、黒川委員、前島委員、澤委員、大久保委員、北野委員、川上委員、岩里委員

運営会議が出席を必要と認めた者 花岡所長、有田生命情報・DDBJセンター長、佐藤教授
事務局 管理部長、総務企画課長、財務課長、その他関係職員

会議に先立ち、事務局から、会議の成立要件の定足数（過半数の出席）を満たしている旨の報告があった。

（所長挨拶）

所長から、挨拶があった。

議 事

審議事項

（1）国立遺伝学研究所名誉教授候補者の選考について

所長から、候補者の経歴、研究業績及び功績について、資料1に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

（2）研究教育職員の人事について

●特任教授の称号付与について

所長から、候補者の略歴、研究業績及び称号付与を行う必要性について、資料2-1に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。委員から、特任教授の任期について質問があり、所長から回答があった。

●遺伝形質研究系神経回路構築研究室助教の再任について

再任評価委員会委員長である澤委員から、評価対象者の研究業績、委員会における評価の経過及び評価結果について、資料2-2に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

●情報研究系大量遺伝情報研究室助教の再任について

再任評価委員会委員長である佐藤教授から、評価対象者の研究業績、委員会における評価の経過及び評価結果について、資料2-3に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。関連して以下の意見交換があった。

- ・「人材確保」の観点で、情報系だけに限らず、どの研究分野においても、優秀な人材はアカデミアから離れてしまう現状があり、人材確保に苦労している。
- ・助教の任期制度が導入された当時の背景、目的を考えると、助教には与えられた役割があり、そのために助教には10年の任期が与えられていると考える。再任のシステム

と個々の事例は切り離して考えたほうがよい。

- ・アカデミアに残る以外にも、多様な道があり、キャリアについて相談できる部署が遺伝研にもあるとよい。

(3) 2023年度客員研究部門教員の選考及び称号付与について

所長から、2023年度客員研究部門における新規候補者1名の研究業績等について、資料3に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

(4) 2023年度国立遺伝学研究所共同研究・研究会の採択について

澤委員から、2023年度国立遺伝学研究所共同研究・研究会の申請状況、採択案及び予算の配分方針案について、資料4に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

(5) 国立遺伝学研究所改組について

有田生命情報・DDBJセンター長から、生命情報・DDBJ研究センターの新部門設置について、経緯、新部門の事業内容等について、資料5-1に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。次いで、仁木委員から、放射線・アイソトープ支援ユニットの名称変更について、経緯、ユニットの業務内容変更について、資料5-2に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

報告事項

(1) 研究教育職員の人事異動について

所長から、研究教育職員の人事異動について、資料6に基づき、2022年10月から2023年2月の間の人事異動の報告があった。

(2) 令和5年度概算要求について

仁木委員から、令和5年度概算要求について、資料7に基づき、報告があった。

(3) 第25回生物遺伝資源委員会について

仁木委員から、第25回生物遺伝資源委員会について、資料8に基づき、議事の概要等の報告があった。

(4) 第28回事業委員会について

前島委員から、第28回事業委員会について、資料9に基づき、議事の概要等の報告があった。

(5) 国内研究機関との連携協定について

所長から、国内研究機関との連携協定について、資料10に基づき、目的及び連携事項等の報告があった。

その他

- ・所長から、現在の運営会議委員が2023年3月末日をもって任期満了となることから、お礼の挨拶があった。
- ・人材確保及びその問題点等について意見交換があった。

以上